

令和5年度
鹿児島市小・中連携研修会
～甲南中学校グループ～

グループ研究主題

生きる力を育む小・中連携の取組の在り方について
～「学習指導」「生徒指導」「特別支援教育」の観点から～

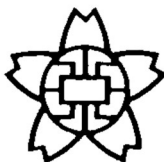
- A グループ分科会(学習指導): 学習指導の充実を図る。 【授業参観:1年1組 分科会1年2組】
(1) 確かな学力の育成を図る指導の在り方
- B グループ分科会(生徒指導): 生徒指導の充実を図る。 【授業参観:2年2組 分科会2年1組】
(1) 基本的な生活習慣の確立 (2) 配慮が必要な児童・生徒への支援
- C グループ分科会(特別支援教育): 特別支援教育の充実を図る。 【授業参観:第2理科室 分科会3年4組】
(1) 個に応じた指導・支援

13:45	14:00	14:50	15:00	16:30	16:40
受付	公開授業	移動・準備	分科会	指導助言	

※ 分科会の内訳

15:00～15:45 協議Ⅰ 授業分析

15:50～16:30 協議Ⅱ 各分科会テーマに対する協議



令和5年6月26日(月)
会場:鹿児島市立甲南中学校

令和5年度 鹿児島市小・中連携研修会 ～甲南中学校グループ～

1 日程

13:45 14:00 14:50 15:00 16:30 16:40

受付	公開授業	移動・準備	分科会	指導助言
----	------	-------	-----	------

2 研究主題

生きる力を育む小・中連携の取組の在り方について
～「学習指導」「生徒指導」「特別支援教育」の観点から～

3 主題設定の理由

変化の激しい社会を担う子どもたちに必要な「生きる力」を育むため、確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成が学校教育に求められている。また、授業の質的改善やLD・ADHD等、学習に集中することが難しい児童・生徒への指導上の課題もある。さらに、いじめや不登校等、生徒指導上の課題も発生してきている。

そこで、同じ地域に生活する児童・生徒の健全育成や学力向上を目指し、小・中学校間で情報交換をしながら、連携して指導に当たっていくことは有意義であると考えたため、このように主題を設定した。

4 研究の視点

- 1 学習指導の充実を図る。
 - (1) 確かな学力の育成を図る指導の在り方
- 2 生徒指導の充実を図る。
 - (1) 基本的な生活習慣の確立 (2) 配慮が必要な児童・生徒への支援
- 3 特別支援教育の充実を図る。
 - (1) 個に応じた指導・支援

5 提供授業

学年・組	教科	場所	学習内容	分科会
1年1組	英語	1年1組教室	NEW HORIZON English Course Unit3 Part2 want to ～ を使った文章表現	A 学習指導
2年2組	国語	2年2組教室	短歌を味わう	B 生徒指導
3年3組	理科	第2理科室	化学変化とイオン	C 特別支援教育

6 分科会

(1) 係分担 ※ 敬称略

分科会	授業提供者	進行係	司会者	記録者	提案者	指導助言者
	氏名(所属)【場所】	氏名(所属)	氏名(所属)	氏名(所属)	氏名(所属)	氏名(所属)
A 学習指導	(甲南中) 【1年1組】	(中洲小)	(甲南中)	(荒田小)	(荒田小) (中洲小) (甲南中)	(甲南中校長)
B 生徒指導	(甲南中) 【2年2組】	(荒田小)	(甲南中)	(荒田小)	(荒田小) (中洲小) (甲南中)	(荒田小校長)
C 特別支援教育	(甲南中) 【第2理科室】	(中洲小)	(甲南中)	(中洲小)	(荒田小) (中洲小) (甲南中)	(中洲小校長)

(2) 参加人数

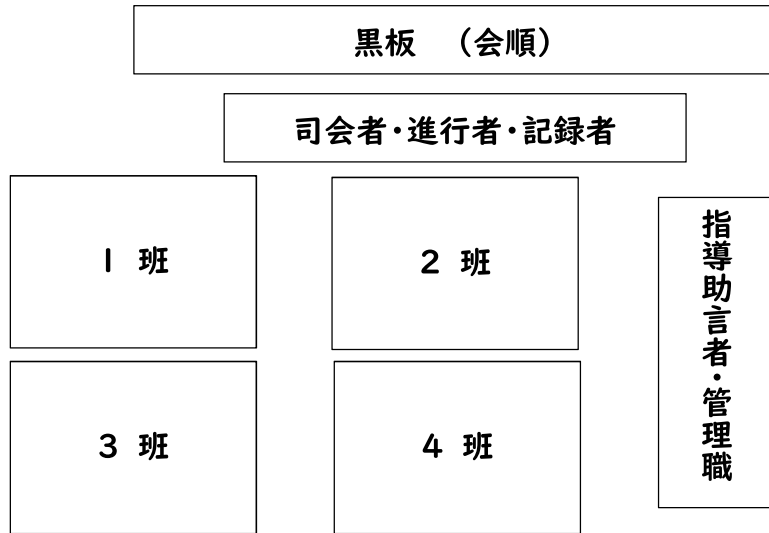
分科会 学校	A 学習指導 (1年2組)	B 生徒指導 (2年1組)	C 特別支援教育 (3年4組)	各校参加人数
荒田小	計 6人	計 8人	計 6人	計 20名
	(1班 2名 記録含) (2班 1名) (3班 2名) (4班 1名)	(1班 2名 記録含) (2班 2名 進行含) (3班 2名) (4班 1名) (管理職 1名)	(1班 1名) (2班 1名) (3班 2名) (4班 2名)	
中洲小	計 7人	計 7人	計 7人	計 21名
	(1班 1名) (2班 2名 進行含) (3班 1名) (4班 2名) (管理職 1名)	(1班 1名) (2班 2名) (3班 2名) (4班 2名)	(1班 2名 記録含) (2班 1名) (3班 2名 進行含) (4班 1名) (管理職 1名)	
甲南中	計 10人	計 9人	計 8人	計 27名 ※各班に1人ずつ ファシリテータ を含む
	(1班 2名) (2班 2名) (3班 2名 授業者含) (4班 2名) (司会者 1名) (管理職 1名)	(1班 2名) (2班 2名) (3班 2名 授業者含) (4班 2名) (司会者 1名)	(1班 2名) (2班 2名 授業者含) (3班 1名) (4班 1名) (司会者 1名) (管理職 1名)	
各分科会 参加者数	計 23名	計 24名	計 21名	計 68名
	(1班 5名 記録含) (2班 5名 進行含) (3班 5名 授業者含) (4班 5名) (司会者 1名) (管理職 2名)	(1班 5名 記録含) (2班 6名 進行含) (3班 6名 授業者含) (4班 5名) (司会者 1名) (管理職 1名)	(1班 5名 記録含) (2班 4名 授業者含) (3班 5名 進行含) (4班 4名) (司会者 1名) (管理職 2名)	

※ 記録者, 進行係は授業研究と協議のグループ活動に参加する。授業提供者は協議のみグループ活動に参加する。

(3) 分科会会順

15:00~15:03	開会のあいさつ
15:03~15:06	授業者の振り返り
15:06~15:50	協議Ⅰ 授業分析
15:50~16:30	協議Ⅱ 各分科会テーマに対する協議
16:30~16:40	指導助言
16:40~	閉会のあいさつ(各分科会で解散)

(4) 分科会会場図 (Aグループ…1年2組 Bグループ…2年1組 Cグループ…3年4組)



(5) 分科会メモ ~授業分析の結果と各学校の課題を踏まえて~

① 自分たちの学校でさらに力を入れたいこと

② 今後、新たに学校に取り入れたいこと

授業の参観方法について

甲南中学校 研修係

① 授業参観の流れ

各グループで見取る集団(4～5名程度)が決められていますので、そちらの生徒のつぶやきや行動を観察シートに記録していきます(座席表参照)。

★ 観察シートへの記録の仕方

本時の内容に書かれている「目指す生徒の姿」に対して、生徒が授業内で見せた姿を記録します。また、「目指す生徒の姿への手立て」に対して、教師が生徒にとっての行動や言動を記録します。

実際に生徒や教師が発した言葉や行動など、「事実」のみを記録しましょう!

例

【観察シート】		
観	S: (生徒の様子)	
導 入 モ	【本時で目指す生徒の姿】 英語と日本語の文構造の違いに気づき、英語で文章を作りたいと意欲を高めている姿。	【目指す生徒の姿への手立て】 単純な英文を示すのではなく、生徒の生活経験から状況をイメージできるように、日常的な話題になる人気漫画や映画などの英語版の台詞を引用し、日本語の文構造との違いに気づかせる。
	○ A君→面白そう!	日本語と英語は文構造が違うんだよ。これって面白くない…?
	△ B君→難しそう。どうでもいいや…	
	△ B君→天を仰ぎ大きいため息をつく	

迫れている場合は○を、迫れていない場合は△をつけておくと、あとで付箋にまとめやすいです。

⊗NGワード⊗

例 ~だったと思う。
 授業者は~すべきだったのに…
 ~々なところが良かった。

自分の主観で考えたことを書かないようにしましょう。
 あくまで書き取るのは「事実」だけ…。

② 授業研究の流れ

I 付箋への書き出し

↓
 ・授業の観察シートを基に、付箋に生徒のつぶやきや行動など事実のみを書き起こす。

II 時系列に整理

↓
 ・付箋を時系列に並べ、目指す生徒の姿に迫れている付箋には○印を、迫れていない付箋には△印を付ける。

III 付箋の分類と分析

・○印と△印を付けた付箋を新たな広幅用紙に分類して貼り替え、ネーミングする。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">A 学習指導</p>	<p>① 確かな学力の育成</p>
	<p>～課題～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人差が大きい。個人差への対応のしかた。(問題を解くのに時間がかかる。) ・ 個別指導の時間が確保できない。 ・ 家庭学習が定着していない。 ・ 最後まで丁寧に文章を読んで、理解する。 ・ 最後までしっかりと集中して話を聞く姿勢や態度が身に付いていない。 ・ 読解力の育成 <p>～改善策～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題を解くのに時間がかかる児童は、問題数を減らし、集中して解かせる。 ・ 休み時間に個別指導をする。 ・ 家庭学習の手引きの作成・見直しをする。 ・ 教室後方や階段・廊下等に宿題を掲示することにより、意欲を喚起する。 ・ つまずいているところまで戻って指導する。(特に算数) ・ 学級を解体し、習熟度別に授業を行うことで、学力差に対応する。(算数) ・ 家庭と連携を図る。(学力差に対応・家庭学習の改善など) ・ 授業内で個に応じた指導に取り組む。 ・ 学力を高めるために教え合いを行わせる。(ミニ先生)
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">B 生徒指導</p>	<p>① 基本的な生活習慣の確立 ② 配慮が必要な児童・生徒への指導・支援</p>
	<p>～課題～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣が定着していない。(遅刻・忘れ物・返事・言葉遣い・学習意欲の低下など) ・ 遅刻しがちな児童が固定化している。 ・ 登校渋りの児童が増えてきている。 ・ 保護者からの連絡無しの欠席がある。保護者と連絡がとれない。 <p>～改善策～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ きまりを守ることへの意識が低下していることも考えられることから、学習や生活のしおりを使って、きまりについて児童と確認したり、定期的にチェックを行ったりする。また、担任間で指導に差が出ないように、職員間で共通理解を図る。 ・ 家庭と連携を図る。現状をうまく伝え、保護者と協力して改善していくにはどうしたらよいか。 ・ 保護者へ啓発する。(何かよい資料がないか。) ・ 睡眠習慣を改善する。 ・ 保護者と連絡がつかない家庭については、関係機関等の協力を得て保護者へ啓発をしていく。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">C 特別支援教育</p>	<p>① 個に応じた指導・支援</p>
	<p>～課題～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流学級で、効果的な個別指導ができない。 ・ 交流学級児童と仲良く活動したり、遊んだりすることができない。 ・ 特別支援学級児童のトラブルの対処について ・ 交流学級の児童に「特別支援学級」についてどのように説明するのが望ましいのか。 <p>～改善策～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流学級担任と特別支援学級担任との連携を深める。(どのような声かけや指導が効果的か共通理解を図る。) ・ 交流学級児童とのペア活動やグループ活動などを教師が意図的に計画し、「楽しく活動できた」という成功体験をより多く味わわせることにより、交流の機会も増えてくるのではないか。 ・ 特別支援学級児童の特性は、どの児童も違うため、絶対にうまくいくというマニュアルが存在しない。その児童に応じた対応をしていかなければならない。昨年度からの引継ぎも重要である。(小中連携も) ・ 児童間トラブルについては、特別支援学級児童だからといって特別扱いするのではなく、しっかりと双方に話を聞いて、丁寧に対応していく必要がある。悪いことをしたらしっかりと謝罪させ、改善させていく。 ・ 児童の発達の段階に応じた説明をする。児童によって理解力に差があるので、詳しく説明することは避けた方がよいか。 ・ 保護者へ特別支援教育について啓発する。(学級 PTA や週報等の活用)

<p style="text-align: center;">A 学習指導</p>	<p>① 確かな学力の育成</p>
	<p>～課題～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の二極化が顕著である。 ・主体的な学びの姿勢が身につけていない。 ・情報や考えを可視化する習慣化が図れていない。 <p>～改善策～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラスト 10 分の見極めを確実にいき、終末の時間の確保に努める。その中で適用問題を通して、本時の学習内容の定着度を確認するとともに、個別指導を行う。 ・導入において、主体的な問いを促すために、「発見」「比較」「負荷」「活用」の 4 つの要素を含む発問や資料提示に努める。 ・聞き取りのメモ、読み取りの接続詞、文末表現、キーワードチェック、文章問題の図、数直線への変換などを日常的に行わせることで、情報の正確な入手や考えの整理などができるようにする。
<p style="text-align: center;">B 生徒指導</p>	<p>① 基本的な生活習慣の確立 ② 配慮が必要な児童・生徒への指導・支援</p>
	<p>～課題～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホ、ゲームへの依存性が高い。 ・廊下歩行が悪い。 ・不登校並びに不登校傾向にある児童が多い。 <p>～改善策～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネット、ゲーム 1 時間以内、9 時以降は触れないことを提唱しているが、守れていないことが多い。依存性が高いほど、子供の成長に悪影響を及ぼすことを大人が真剣に受け止め、子供たちにその必要性を本気で伝えていくことが最善策である。また、読書を推奨し、活字による知識や豊かな心の獲得を意識的に行うよう努める。 ・右側歩行カードの掲示、点数化による実態の具体的把握を通して、一人一人の自制心の高揚に努める。 ・家庭や関連機関と相談し、長期目標、短期目標を定め、少しずつ改善を図っていく。焦らず、その子の実態やニーズを大切に寄り添うようにしていく。また、チームで対応することも大切にしたい。
<p style="text-align: center;">C 特別支援教育</p>	<p>① 個に応じた指導・支援</p>
	<p>～課題～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的から自・情へ特別支援学級の転籍、またはその逆を検討し、就学指導を薦める場合、小学校卒業後の進路の見通しが明確に持っていない。 ・進学に向けて小学校生活で、特にしておいてほしいことはないか。 ・木市への買い物や親子クッキング、お月見団子づくり、特別支援学級での遠足など、自立活動を行っているが、他校はどのようなことをしているか。 ・年度初めの家庭訪問（全家庭）や夏休みの教育相談（全家庭）、秋の教育相談（希望者）を実施し、連携を密にとるようにしている。成果もあるが、就学指導については難しさがある。 <p>～改善策～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校へ進学した児童の過去の中学校卒業後の進路先を保護者へ示す。 ・小学校生活が中学校生活につながるような指導を小学校で充実させる。 ・鹿児島市の中央に位置する利点を生かし、買い物や公共施設でのマナーや使い方の確認をするなどの自立活動をする。また、校外学習だけでなく、事前指導や事後指導の充実を図る。 ・教育相談を積み重ね、進級してから一学期に体験的に入級し、市の就学相談へつなげる。

A 学習指導	① 確かな学力の育成
	<p>～課題～</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学習意欲の二極化が目立つ(発表をする生徒・しない生徒の固定化, 課題の取組)。 ② 学習の指示が通らないことが多い。(話を聞いていない?) ③ 丁寧な字でまとめられなかったり, 文章表現が苦手だったりする生徒が多い。 <p>～改善策～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの達人(話し方, 聞き方, 反応の達人)を意識させ, 発表しやすい雰囲気を作る。 ・日記や生活の記録の習慣化(横のつながりを意識した共通実践が行えればなおよい。)
B 生徒指導	① 基本的な生活習慣の確立 ② 配慮が必要な児童・生徒への指導・支援
	<p>～課題～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物が多く, しっかりと話を聞いていない(今話したことを聞いてくる)など基本的な生活習慣が身についていない ・SNS系のトラブルが増えてきている。 ・登校渋りや不登校傾向の生徒が増えてきている(来るだけでOKの生徒が多い) <p>～改善策～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモをさせることやプリントはさみの利用など小中で同様に取り組んでいく。 ・スマホやSNS利用の指導と保護者への啓発を促す。 ・フレンドシップや放課後デイサービスの利用状況なども小学校と連携していく。 ・以前までの小中連携で取り入れたことの現状理解を図る(二着一黙, 語先後礼など)
C 特別支援教育	① 個に応じた指導・支援
	<p>～課題～ 「個別最適な学び」に向けた授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で, 学習への取組や学習内容の理解度に差がある。 ・教師側の指示が十分に届かない, 理解するのに時間がかかる。 ・文字を書く, 周囲と同じようにノートをとる(板書したものを写す)活動が苦手である。 <p>～改善策～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びのユニバーサルデザイン」 例1) a「紙と鉛筆を使って書く」 b「タブレットに入力する」 例2)「電卓を使う」 →基本は皆a, しかしそれが難しい生徒にはbを認める。 ※「その授業や活動のねらいは何なのか」を判断し, 認める・認めないラインを見極める。 ・視覚的支援を行う。例) ・授業の流れや時間, 活動場所等の提示 ・チョークの色・・・赤・青・緑では文字は書かない ・学習内容の精選, 教材・教具や教室環境の整備に努める。・・・「合理的配慮」 ・ICTの効果的な活用 例) 板書内容をタブレットで撮る。ロイロノートで送る。→後で書き写させる。 ・ペア学習やグループ学習等, 生徒同士で教え合う, 学び合う活動を多く設定する。 ・生徒の実態に応じた課題内容や量の設定を図る。 ・学校全体の支援体制の整備, 校内委員会の活性化, 「個別の指導計画」や「指導計画」の策定 ・発達段階及び特性等の的確な把握をもとに, 家庭との連携を密にした支援体制づくり～